

影

を探して、

モノガタリ

をつむぐ

～影絵の創作を通じた地域文化再考の試み～

岩手は、民話や民俗芸能など
ゆたかな口承文芸が息づく土地。

宮沢賢治も、そうした地域の文化をもとに
新しい作品を生み出したひとりです。

この講座では、影絵師の川村亘平斎さんを招き、
地域の話や思い出をもとに物語をつくる方法を学びます。
そして参加者のみなさんも、
岩手の文化や身近な体験をヒントに
実際に影絵作品づくりに挑戦します。

「地域の話を、あたらしい形で表現してみる」
という特別な学びを体験してみませんか？

3
21
SATURDAY 2026

申込はこちら



かわむら こうへいさい
講師 川村 亘平斎 氏

影絵師・音楽家。バリ島でワヤン・クリットとガムランを学ぶ。影絵と音楽を融合した舞台作品を国内外で発表し、土地の物語を再生する創作でも注目される。音楽ユニット「滞空時間」主宰。



コメンテーター ウム デジン 氏

韓国的重要無形文化財「男寺堂ノリ」伝承者。
放浪芸能集団の伝統人形劇「トルミ」を継承・
創作する団体「演戯工房 ウンマゲンゲン」代表。
人形制作・演出・出演を手がける。

プログラム

【午前】

10:30～12:30

1. 趣旨説明 「地域のモノガタリ再発見・再創造」

神野 知恵（岩手大学人文社会科学部准教授・同宮沢賢治いわて学センター兼務教員）

岩手に伝わる昔話や芸能などのモノガタリに目を向け、地域の文化を今の時代にどう伝え直していくのかについて、一緒に考えます。

2. 影絵とお話 「町の影を探す -日本各地での影絵プロジェクトの試み-」

講師：川村 亘平斎（影絵師・音楽家）

インドネシアで影絵の技法や考え方を学んだ経験を出発点に、日本各地で行ってきたワークショップや創作活動について紹介します。地域に伝わる話をどのように掘り起こし、作品づくりへつなげていくのか、その過程と工夫を具体例とともにお話しします。

コメンテーター：ウム デジン（韓国伝統人形劇演者）

韓国の伝統人形劇の例を交えながら、伝統文化をもとにした創作の可能性についてお話しします。

3. 座談会（川村 亘平斎×ウム デジン×神野 知恵）

これまでの創作やフィールドワークの経験をもとに、岩手の芸能や昔話からどんな影絵や人形劇がつくれそうかを、具体的な例を挙げながら楽しく語り合います。

総合司会：木村直弘（岩手大学人文社会科学部教授・同宮沢賢治いわて学センター副センター長）

12:30～13:30

昼休み

【午後】

13:30～18:00

制作実践ワークショップ

影絵の作り方の基本を学んだあと、参加者同士の対話を通して、自分が知っている郷土芸能や地域の話をヒントにモノガタリを考えます。絵コンテ作成や人形づくり、台詞や人形操作の練習を行い、最後は生演奏とともにミニ発表まで行う、体験型の創作ワークショップを行います。



持ち物

筆記用具

その他

講座の全てを受講した方へ「受講証明書」を発行いたします。

会場のご案内

〒020-8550

岩手県盛岡市上田3丁目18-8

岩手大学大学会館2F
大会議室

